

春日山公園自然観察会

区分：講師派遣

日時：2022年6月8日9:00～12:00

場所：滋賀県営春日山公園

天候：晴れ

対象：京都府教職員互助組合退職互助部

人数：18名、職員さん2名、スタッフ3名（清水、平尾、上月）

コース：北側シンボルゾーン駐車場から沢沿いに歩き、どん突きから尾根に上り、尾根筋を見晴台まで歩き、石室経由万葉ゾーンまでのコース。

里山丘陵の棚田から尾根を挟んだ南側の棚田に挟まれた丘陵を巡る自然観察会。棚田の沢沿いに相当する道を谷を詰めるように歩き、湿地と日当たりのよい斜面に育つ草本や、つる植物、低木の類を見ることができた。

今はすでに伐採されたアカメヤナギの切株を見ながら、その実生と思われる特徴のある托葉を有する幼木を観察。まもなく赤くなるうとする実をつけたガマズミ、葉の表面が波打っているヤマハゼ、互生が詰まって輪生のように見える（偽輪生）ツルニンジン。いずれも花をつけておらず葉を見て歩く。実をつけたイヌビワがあり、イヌビワコバチとの共生について説明、参加者の目が輝くのを感じる。花のない時の観察会は生物の生態の不思議に的を定めたほうが、参加者も興味を持っていたらと実感した瞬間だった。その後上りの階段付近では説明対象が多く流れが滞ったので堆肥製造のヤード横でブロック塀の上に付着したコケ（種名不詳）を観察、シダや、他の植物と比較しながら子孫を残し生育範囲を拡大する仕組みについて少し触れた。



ネジキ

先行するグループがいなくなったため後を追って階段の登りに進む。やはり花のないショウジョウバカマの不定芽のこと、キッコウハグマの葉の形、照り返しの強いオオイワカガミの葉、クチベニタケなどを見ながら尾根筋に入る。足元に米粒をばらまいたような真っ白の花に目が留まり、ここでやっとネジキの半透明の鈴なりの花を見ることができ感激、ヤブムラサキの紫の花も加わり少し美しいものに触れられ安心した。



ヤブムラサキ

下見の時に確認したササユリはもう見頃を過ぎ残念。天気によさもあって展望台からは琵琶湖大橋、沖ノ島などもよく見え、さわやかな風を受けて下山。

万葉ゾーンでトイレ休憩を取り、ショウブの花を探しに、なかなか見つからず散々探した後、“アッター”との声。こい茶色のアンスリュームのような形の花が2個見つかった。参加者たちはハナショウブを想像されていたようで驚きの声上がり、これが最後の観察対象となった。その後入り口のあずまやまで戻り、あいさつの後友の会への参加を呼びかけ今日の観察会はお開きとなった。（上月）

当日の配布資料

京都府教職員互助組合退職互助部 春日山公園自然観察会資料(Map 補足資料)

- A アカメヤナギ(マルバヤナギ)の幼木が見られますが、その親木の太木 2 本の伐採された切り株が 2 本見られます。ここは張り出した山の尾根の間にあり、かつて中山間地の棚田であったところです。左側斜面を観察して歩きます。キツネノボタン、サワヒヨドリ、ミツバなどの湿性の土地を好む草花が見られます。林縁部で日当たりが良いのでつる性(ツルニンジン、ガガイモ)や低木(ヤマハゼ、ガマズミ、ヒメコウゾ、コジキイチゴ)などの植物によってマント群落を形成しています。奥に進んでいくと少し変わった葉をした植物に出会います。秋に茶色の小さな花を咲かせます。ノダケです。下見時はまだ咲いていませんでしたがウバユリがいくつも見られます。
- B どん突きを左に曲がると少し登りになります。一気に山の植物と思われるものが出て来ます。草本のヒヨドリバナ、シハイスミレ、キッコウハグマ、ショウジョウバカマ。木本ではコアジサイ、コバノガマズミ、アクシバ、ウリカエデ、カクミノスノキ、アオハダ、ヤブコウジ、ツルアリドオシなど短い区間に沢山の種が見られます。
- C 十字路を右に、公園から外れます。山の斜面にイワナシ、オオイワカガミ、ノギランが見られます。
- D 公園内に引き返します。少し広くなった道で右側は谷斜面になります。この辺りは昔里山の薪炭林として利用された名残が見られます。アベマキ、カナメモチ、コシアブラ、タカノツメ、ヤブニッケイ、ガマズミ、夏期を迎えたヤブムラサキとネジキがきれいです。
- E 二股に分かれて左の細い山道を展望台へと向かいます。秋には可愛い花を咲かすコウヤボウキ、花が終わったばかりのツクバネウツギ、シイ、花盛りのイヌツゲ、夏に咲くノリウツギなどが見られます。展望台の入口にはミヤマガマズミ。展望台に着きました。正面には近江富士(三上山)、琵琶湖の南湖が見え琵琶湖大橋がかかっています。正面左は沖島と近江八幡のやまなみが展望できます。
- F 展望台から尾根を越えた反対の谷にあります。ここもかつての棚田の最下部にあたり上からの浸透水が流れて作り出された池に出ます。この池にはカヤネズミが生息しています。ヘビや蛙などの生息する場所です。この池にはショウブの群生が見られます。この左奥を登っていくと中山間地の小さな 4 7 枚の棚田(私有地)にでます。現在環境団体によって耕作整備されています。

☆書けなかったものは現地でのガイドに従ってください。

